

事務職員の活動

～私の学校での取り組みについて～

登別市立幌別東小学校
三河 洋

1. はじめに

胆振支部は、昨年度（2017年度）洞爺湖町において、第67回全道事務研究大会胆振大会を開催することができました。全道各地から参加された皆さまに大変感謝しております。

次に、胆振支部の紹介として、3つの地区に分かれて研修活動を進めています。西部地区は、伊達市、壮瞥町、豊浦町、洞爺湖町の1市3町、中部地区は、登別市、白老町の1市1町、東部地区は、むかわ町、厚真町、安平町の3町より構成しています。なお、中心となる研修会は、地区研修（平成29年度は3回）、胆振支部研究会を5月に開催しています。

さて、今年度（2018年度）は、第68回全道事務研究大会函館大会に胆振支部の研究発表を行うことになりましたので、発表に至る経緯、並びに研修内容について説明します。

2. 研修テーマの設定

平成29年6月、胆振支部研究推進委員会（メンバー：支部研究推進委員長、支部研究推進副委員長、支部副会長、東部地区研究委員長、中部地区研究委員長、西部地区研究委員長6名）による研修会議を行い、今年度の研修テーマ、研修活動の主な内容について話し合いました。その中で、9月の全道事務研究大会胆振大会の準備運営を考慮し、単年度で完結できるように実態交流を研修のテーマにしようと考えました。実際に事務職員がどのような業務（活動）を行っているのかに焦点を当て、実態交流をして終わりとするのではなく、会員へのアンケートを結果として残し、各自が学校に戻った際に、その会員が置かれている状況に少しでも役立つことができればと考え設定しました。

また、そのアンケートの際には、より率直な回答を得るため、アンケート結果に対して結論を求めないこととしました。

3. 研修活動の経過

各地区研修会より、第1回目（7月）は研修テーマ、研修内容についての説明を行い、研修終了後から第2回目までの期間で、アンケートを実施しました。第2回目（12月）はアンケート実施結果について、地区交流しました。第3回目（2月）は西部、中部、東部地区アンケート結果より交流しました。

平成30年5月18日、登別市民会館において、胆振支部の主催による「北海道公立小中学校胆振支部事務職員研究会」を開催し、各地区研究発表・研究協議で、地区の研修資料ごと、各地区3名による研究推進委員長からの報告発表、質問意見含めての全体交流を行いました。

4. アンケートの集約結果

最初に、アンケートの質問項目については、事務職員の業務と学校行事に分け、事務職員がどの程度その活動に関わっているかを選択形式で作成しました。さらに各項目で予想される事柄を細分化し、質問内容に当てはまらないところは筆記してもらうこととしました。

そして、別冊資料にあるようにアンケートの結果を一覧表にしたものを会員に配布し、その内容について各地区で交流しました。

【財政業務】

●予算配分の作成、提示を行う学校がほとんどであったが、決算報告となると実践校は減る。

→決算報告をしても反応がないから

→ある教員が「『予算がない』と言われても、『何の予算がないの？』とってしまう。」と言ったことで、全体予算の共有がいかに大切かを改めて感じた。

→枠内で予算を運用することはラクだけど、ある教員が「年間予算でA4が○箱、B4が○箱と言われてもあまりイメージが湧かない。予算をもらうより、使いたい時に使いたいものがある環境さえあればありがたい」と言われてから、予算を教員におろすときには、提示の方法も工夫が必要だと思った。

→異動した先の学校で「物品庫に物が無い」という状況は、前任者の事務職員にとって

の節約の状態なのか、その人の感覚として「物が無い」と捉えていないだけなのか判断し兼ねることがある。

- コピーの使用量などが多いときに、朝の打ち合わせなどで報告する事例があった。
- 予算に限りがあることを意識させるために行っている。
- 頭の片隅にでも引っかかってくるといいと思いながら伝えている。

【施設・備品業務】

- 施設関係対応が基本的に教頭になっている学校があり、それでよいのか？事務職員が担っている学校が多いのではないかな？
- 東部地区では施設関係対応は管理職が行う仕事となっている。
- 実態として担うことはできるが、内容（程度の大きさ）や不在時の対応等、教頭と連携する必要はどの学校でもあるので、これまで同様、臨機応変な対応でいいのではないかな。
- 一方、予算要望では施設修繕の希望をまとめるのは事務職員。予算がかかっているから。
- 教材備品の管理は教務がだいたい行っている。教材点検の仕切りなどについては、事務職員が多い。廃棄もかかわるため。実際に動くのは教員。小学校はいろんな場所をみんなで確認できる良い機会となっている。

【企画・通信業務】

- 子ども向け、保護者向け、職員向けを併せて考えても、文書を発信しているのは小学校がほとんど。職員向けには「給与・手当の変更」などの内容。
- その時の校長の理解、学校や職員の状況とも関係してくる。
- 事務だよりにせず、通知の回覧を行うことが多い。
- 保護者向け事務だよりの作成をしている学校は2校あった。
- 児童、保護者、地域一体となった学校づくりを目指した発信を行っている。
- 発信実績のない学校では、発行する環境の整備（理解や協力）等から始めなければい

けない。引継ぎ等も考えなければいけない。

- 教職員に対する連絡（給与・手当情報提供、その他事務職員所管事項など）は何かしらの方法（通知文の回覧、グループウェアの活用）で情報を発信している。
- 職員・分掌間での報告・連絡・相談の仕方、連携、コミュニケーションのとり方は学校もしくは個々で違いが出てくるのではないかな。
- 白老町の事務職員は「よりよい学校づくりアンケート」と題した子どもアンケートを実施し、児童・生徒の要望を予算要望に反映させる取り組みも行っている。
- リサイクル大作戦は、卒業や進級に際し不要となった教材物品の提供依頼について、保護者宛に通知文書を事務から発信している。
- 実施校より、年度で数量等様々であり、特に鍵盤ハーモニカは洗浄保管して児童に貸し出し、修理用部品として保管も行っている。
- 学校での取り組みと事務職員との連携として、とても参考になる事例だと思う。

【入学式・卒業式（儀式行事）】

- 小学校は回答すべてで会場に参加。中学校は会場にいるのは1件、その他はいわゆる「留守番」業務
- 中学校は生徒自体も係があたるから、職員が動くことをあまり必要とされていない。
- 小学校ほど教員が子どもにぴったり付いている必要がなく、式中に動ける職員が多い。
- 児童生徒とのかかわり方については、中学校においても生徒と活動する時間は少なからずあるようだ。
- 業務内容は受付、花の注文、会場の放送担当、会場設営、来賓対応、記録などがあつた。
- 特殊な事例として、卒業記念DVD（ビデオ撮影したものを編集）を作成し、卒業時に児童・職員に配布している。前任者から行っており、引き継ぐ方は大変そうだ。

【運動会・体育大会（運動行事）】

- 東部地区ではここも儀式行事と同様に、小

学校は全員が当日会場にいる。中学校は 1 件のみ留守番業務の学校がある。

- 「本当は留守番をしていた方が良い雰囲気もある」との記述があり、儀式行事よりも職員室の留守番を求められている様子。
- 関わりでは準備・片付け作業、接待、記録（撮影）、放送、得点係、賞状係などがある。児童とも準備から片付けまで関わるようだ。

【学芸会・学校祭（文化行事）】

- 割り当てる仕事は記録（撮影）、放送、バザー関係などがある。
- 東部地区では参加動態についてはっきりと差が出た。小学校は全員が会場で参加、中学校は全員が職員室で留守番。
- 学芸会は職員室を締め切っても大丈夫と考えられるのではないか。中学校の学校祭は職員室を締め切れないためでは。
- バザーなど、PTA との関わりの方が多い。

【修学旅行・宿泊研修（旅行的業務）】

- 事務職員として関わりを持たない学校がほとんどだが、撮影されたビデオを編集し、配布したり、旅行代金が年々高額になる傾向が続いているので、保護者負担軽減の観点から情報を会議等で提示していたり、修学旅行検討委員会を立ち上げ、事務部が加わる事例もあった。
- 教員が限度額を分からずに宿泊代や食事代を高額に設定してしまう事例もあったため。
- 引率教員の手当や旅費の請求、旅費の集金、旅行会社への支払いで関わる。
- その他の引率業務として、対外的行事（スケート記録会など）がある学校があった。

【児童会・生徒会】

- 直接関わる学校はなかったが、白老町ではよりよい学校づくりアンケートを実施、集約している。また、町の施策として子ども夢予算づくり事業（実際に各校に予算が配分され（執行は町教委）、児童会・生徒会で使い道を検討し、購入後、実績報告をする）が行われ、その物品購入の際に関わることがある。

【その他】

- 私費会計業務、地域行事（お祭り、清掃活動）への参加（学校の職員としてなのか、地域に住む住民としてなのか）、学校の特色に合わせた関わり方が様々ある。（動物の飼育、花壇、農園、相撲学習、会食会、記録会など）

【まとめ】

- 何をみんなで考えていきたいのか難しい。「そんなもんだな」「大変ですね」くらいにしか思えない。校種の特徴、違いは分かった。
- 事務職員の業務編では、教職員との関係性でその活動の範囲が変わることが示唆されている。文書にして伝える必要がないほど近い関係であったり、普段から細かなやり取りがあることで、その必要性がないことも考えられる。
- 予算、施設と備品、情報発信いずれにおいても、東部地区は学校ごとに独自性を持たせるような取り組みは行っていない側面が見られた。それでよいと思う。ある程度の統制がとられており、異動もしやすいし、シンプルに仕事ができる良いように思える。また、比較的小規模の学校が多いため、より地域に密着した仕事で、この調査には反映されていないような内容の仕事の割合が都市部に比べて多いことも影響しているのではないか。
- 学校行事では小学校と中学校で大きな違いが見られた。各行事への参加について、小学校ではほとんどの学校で児童生徒や教員と一緒に会場に参加するが、中学校については留守番の学校が多い。
- 情報発信の事務だよりに関しては、ただ情報載せるのではなく、コメントを差し込んだり、クイズにしたりと工夫を凝らすことで、少し違った反応がある。
- 例えば転入学関係では教務部と連携したり、安全点検や教材の関係で職員と連携をとる必要がある。その関わり方は事務職員個々のやり方及び状況で変わってくる。双方で共通の認識を図ることが重要ではないか。
- 一職員として PTA 活動に関わることがあり、

環境整備に関する働きかけ（遊具のペンキ塗り）や、運動会前のグラウンド草取りなどで活動する事例があった。

- 地域との関わりでは、町内会行事（ゴミ拾い、お祭りなど）に学校職員として参加する学校がある中、電話対応、来賓対応などで地域の方と接する程度というところもある。それぞれの地域、学校の特色に合わせて、柔軟に対応している。（事務職員ではなく、学校の一職員として見られるため）
- これ以外にも事務職員の業務として位置づけられていないものは（個々の事務職員の良心、プラスアルファの精神）多々ある。

5. おわりに

校種や規模、地域の違いはありますが、様々な業務、または業務と呼ばれない活動を行っていることがアンケートから分かりました。その学校の状況から、その活動が事務職員として正しいかは別として実際に行っている事実もうかがえます。また、前任者が行っていたことを異動してきた事務職員が行えるかの問題もあります。スキルが必要で難しい場合には、引継ぎの際に後任者に「私はこれをやっていたからよろしく」と頼むのか、前任者が職員に「次の人はこういう事はできないので」と申し送りして別の職員に行ってもらえるのか、または後任者が自ら「私はできません」と断るのか、それともその活動自体をやめてしまうのか選択を迫られる場合もあり、その後の人間関係にもかかわるので難しい課題となります。

他支部の方との交流で、これからの職場での業務推進の一助になればと考えていますので、たくさんの意見、実態をお話しいただければと切に願います。

最後に、平成29年度胆振支部の活動は研修テーマを単年度でまとめるよう進めましたが、この内容が今後どのように活用できるのか。また、年度ごとに人が変われば学校体制も変わる職場として、私たち事務職員の立場から情報をどう発信していくべきか。皆さんとともに考えていければと思います、結びといたします。